

政務活動調査報告書

調査日	平成30年11月9日（金）
視察場所	愛知県 尾張旭市
調査項目	こども防災手帳について
視察者名	畑尻宣長
市の概要	面積：21.03 km ² 人口：80,787人 人口密度：3,892.01人/km ² 世帯：33,726世帯 経常収支比率：91.5% 実質公債費比率：3.4%

<尾張旭市の特性>

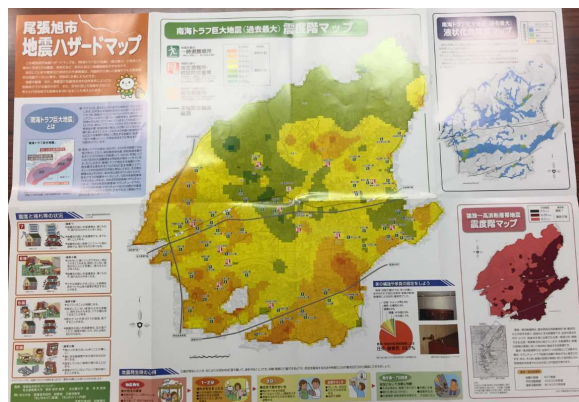
- ・愛知県の北西部に位置、周りを瀬戸市、名古屋市、長久手市と接している。
- ・市域は非常にコンパクト。市役所機能は市のほぼ中心にある。
- ・市内を東西に矢田川（過去に浸水氾濫実績有）が流れ、名鉄瀬戸線が川に沿うような形で名古屋市から瀬戸市まで運行している。
- ・災害時が特に懸念される急傾斜地等の山地がない。河川の氾濫想定区域もわずかである。



<尾張旭市の影響のあった災害>

(1) 伊勢湾台風（昭和34年9月26日、27日）

人的被害	
死者	12名
重軽傷者	35名
物的被害	
全壊家屋	863棟
半壊家屋	802棟
その他の被害	
田畑冠水被害	10ha



(2) 東海豪雨 (平成 12 年 9 月 11、12 日)

降雨量	
総雨量	476.5mm
時間最大雨量	75mm
物的被害	
床上浸水	23棟
床下浸水	75棟
道路冠水	65箇所
道路損壊等	40箇所



<地震による被害想定>

平成 26 年度に独自に被害想定を算定した。

影響のある地震

- (1) 東海・東南海地震連動地震
- (2) 東海・東南海・南海地震三連動地震
- (3) 南海トラフ地震
- (4) 猿投—高浜断層帯地震 (内陸型地震)

これらのうち、南海トラフ地震は、被害規模から尾張旭市としてまず対策を講ずべき地震と位置付けられています。

	南海トラフ地震 (過去最大)
地震の規模	M8.7
震源の位置	紀伊半島沖
尾張旭市の震度	震度5強～6弱
死者数	17人
負傷者数	426人
全壊	418棟
半壊	1,052棟
最大避難者数	8,262人
避難所避難者数	4,131人

※被害想定を算出するにあたり、公共工事で行うボーリング調査のデータも利用し、分析を委託しています。(精度を上げる為毎年出している)

※計画を5ヵ年計画で進めている (備蓄計画、収容計画、物流計画)

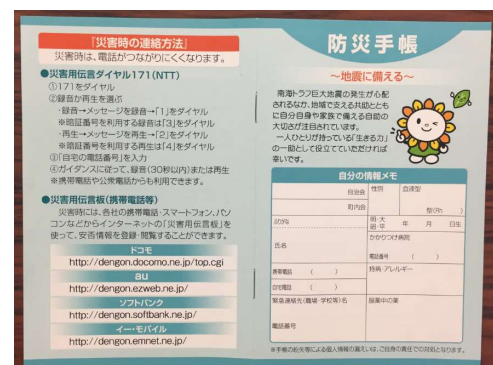
現在3年目になる。

※避難者の収容は、小中学校の体育館を想定している。しかし、この人数は入りきれないので、現在は検討中である。

※備蓄に関しては、計画に沿って、一日3食を三日分を確保している。

<主要な防災に関する取り組み>

- (1) 出前講座・防災講演会の実施
 - ・防災啓発に関する内容の講演を職員が講師として行う。また、外部講師を招いて講演も



している。

- ・主なお題「自主防災組織とは」「避難行動要支援者支援」「地震防災」「災害時対策」
- ・クロスロードゲーム、地震のメカニズムや被害想定など。

(2) 総合防災訓練の開催

- ・毎年8月末ごろに市内の小学校グラウンドを利用して実施
- ・見せる訓練から市民参加型の訓練に取り組んでいる

(3) 風水害及び地震のハザードマップ作成

- ・地震は、尾張旭市独自の被害想定から引用している。風水害は、東海豪雨時の被害箇所等を基に作成。

<こども防災手帳作成の経緯・背景>

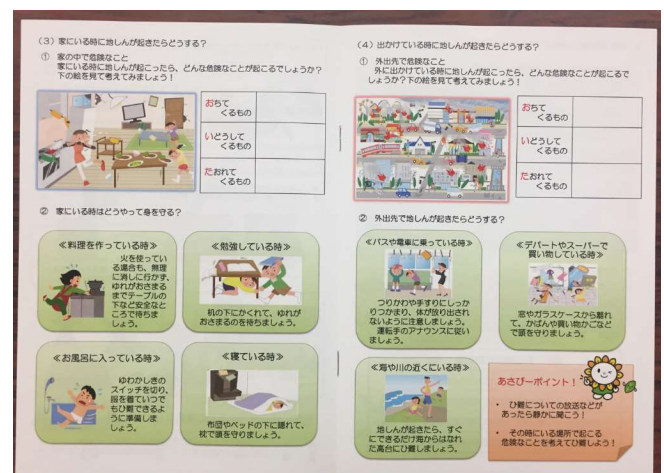
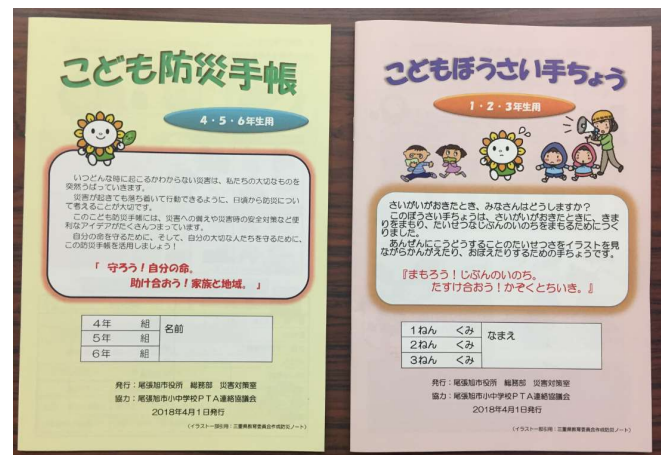
- ・子どもの防災意識の高揚対策の一環。(一般向けの防災手帳はありました)
- ・平成28年度から作成の検討をはじめ。市教育委員会、市PTA連絡協議会と連携。
- ・レイアウト等は、市PTA側から提出してもらい、市で修正を加えた。
- ・内容検討会を定期的開催。

実際、PTAの参加者の中に、イラストや配置など、詳しい方が見えて、より良いものへ変わっていった。

PTAの協力により、子ども目線のわかりやすくするために、イラストを多用するところ、漢字を使わないところが、市の職員では気づけなかった点である。

さらに、子どもたちが、家に持ち帰り、親子で話し合い記入するところを設けたり、クイズ形式にして、注目してもらえるような工夫されているところ特徴です。

- ・高学年用、低学年用の2バージョンを作成。平成30年度は全学年に配布。平成31年度以降は、新1、4年生に配布をしていく予定。



<作成、配布、使用方法>

- ・作成に関しての印刷製本費 189,216円のみ(8,000部)
ほとんどが、PTAの方で作って上げて頂いたこともあり、費用負担は、印刷製本費のみとなっています。
- ・配布先は市内在住の全小学生。
- ・配布方法は、市教育委員会経由及び郵送等。
- ・使用方法は、学校で行われる避難訓練や授業で使用。

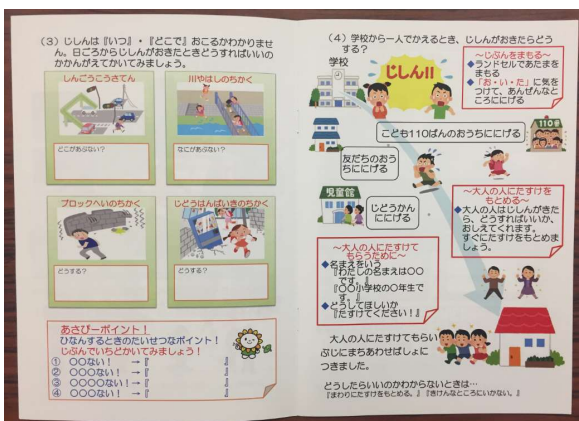
<所感>・・・畑尻宣長

尾張旭市の子ども防災手帳について学ばせて頂きました。視察に行く前に、尾張旭市のホームページに、防災手帳、こども防災手帳が掲載されており、誰でも手に入れられる形になっていました。少しでも役立ててもらいたいとの考えが伝わってきました。

尾張旭市の取り巻く現状を詳しくお聞きしました。立地は、コンパクトシティといわれるような、ほとんど地域が鉄道の駅周辺に立地されているような形であり、急傾斜地のような山地が無いところです。河川の氾濫想定区域もわずかであり、岡崎市と比べても安全な地域であると感じました。市役所の立地も駅前であり、バス乗り場もあり住みやすそうな雰囲気も感じました。そのような中で、地震に特化した想定をしっかりと考え手を打っているようでありました。5ヵ年計画での3年目であり、まだ途中でありますが、今回のこども防災手帳の取り組みは、子どもたちの防災教育に非常に役立つものであると、話を聞いてさらに感じる事が出来ました。

作成の経過では、はじめは市職員で作成していましたが、教育現場で使用するため、市教育委員会、市PTAに相談したところ、PTAの方々が大変協力的で、何10回と打合せを繰

り返し、最終的にはほとんどとっていいほど、イラストを入れたり、クイズ形式を取り入れ、記入するところを設けたりと随所に工夫がされて完成しました。PTAの皆さんは、ご家庭で、どう子どもたちと接して、防災について理解させるかというところに重点を置き、打合せを重ねていったそうです。結果的には、職員が手掛けていた片鱗がないくらい、変わったそうですが、とても子ども目線で良いものが出来たという感想を持ちました。また、小学



1年生から3年生までの低学年用と、小学4年生から6年生までの高学年用とに分けることで、理解できる内容をステップアップさせることが出来ると感じました。さらに、持ち運びのことを考えると、まとめてしまうよりコンパクトになり使い勝手も良いものになっています。そういった配慮もPTAの親御さんたちの考えが詰まっています。このこども防災手帳

は、職員だけの発想で進められていたら、ここまで注目していませんでした。親御さんたちを巻き込むことで、子どもの防災意識とともに、同じようにその親たちも意識を持つようになる効果が見込めるところが、最大限の効果を発揮できるツールになっているのだと思います。

教育現場においては、年一回の避難訓練の事前授業で使用しているそうです。今後の課題としては、PTAの作成に携わった親御さんたちの思いが強く、もっと、このように説明してほしい、こう使用してほしいなど、学校での使い方に意見が出ているようでもあります。さらに学校側では、来年に向け取り入れられるよう検討しているようですが、小さいところからかもしれませんが、いつ起こるかわからないのが災害でありますので、その時になって、はじめて「よかった」と思う人たちがいるような事業が「こども防災手帳」であると思います。この取り組みを、岡崎市でも取り入れてもらえるよう提案していきたいと考えています。

以上